

新たな鉄道高架計画の評価について

1 概算事業費 約 8 5 0 億円

- 県負担額は、約 180 億円を想定（国費 5.5/10 の場合）
- 事業費は、鉄道高架及び車両基地構造物の工事費のほか、用地補償費、軌道や検修庫などの鉄道設備、建築や機械などを含む（鉄道事業者負担含む）
- 車両基地は、「旧文化センター跡地」に移設し、「高架橋構造」を設定

2 想定事業期間 1 3 年

- 事業区間全体を一体的に整備

3 B / C（費用便益比） 1. 2

- 便益（B）は、踏切除却等による移動時間短縮や交通事故減少のほか、高架下利用などを計上

※ 上記内容は、今後、関係者との調整等により変更となる場合がある。

鉄道高架計画の対比表

		現行計画※1 【徳島市南部の牟岐線沿いへの 車両基地移設】	新計画※2 【旧文化センター跡地への 車両基地移設】
概 要	事業区間	徳島駅西～文化の森駅付近	徳島駅西～文化の森駅付近
	事業延長	L＝約4.7km (鉄道高架 L＝約4.2km、 行き違い線等 L＝約0.5km)	L＝約4.2km (鉄道高架 L＝約4.2km)
	車両基地	徳島市南部の牟岐線沿いに移設 (盛土構造) 〔・回送列車により回送コスト(人 件費、燃料費等)及び高架区間 外の踏切遮断時間が増加〕	旧文化センター跡地に移設 (高架橋構造) 〔・移設基地は徳島駅から近く、 回送区間内に踏切がない ・高架橋構造とすることで、 まちの分断が生じない〕
概算事業費 (想定県負担額)		約800億円 (約170億円)	約850億円 (約180億円)
想定事業期間		17年	13年
B／C(費用便益比)		1.3	1.2
整備の進め方		・新町川南側の整備完成後に、徳 島駅側を整備 〔回送列車による踏切遮断時間 増加の影響を軽減するため〕	・事業区間全体を一括して整備

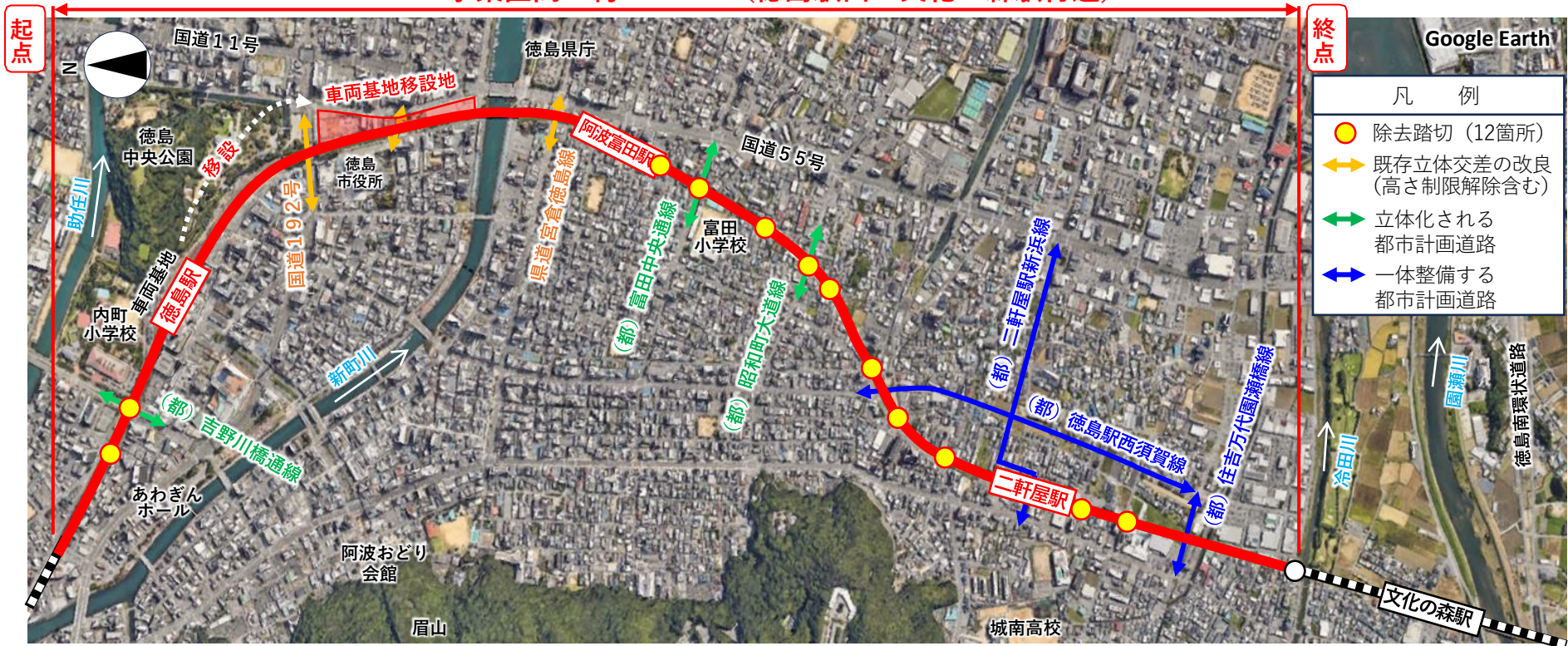
※1 平成18年度着工準備採択(当時事業費500億円)から検討を進め、平成26年2月に
県が分割施行を提案した計画案(事業費や期間などについて再算定)

※2 新計画の内容は、今後、関係者との調整等により変更となる場合がある。

新たな鉄道高架計画の概要

●平面図

事業区間 約4.2 km (徳島駅西～文化の森駅付近)



●縦断図 (イメージ)

事業区間 (高架区間) 約4.2 km

